

## Borderless IR Co., Ltd Announces Newsletter

2018年11月13日

### 株式会社ダイキアクシス(4245 東証1部) 2018年12月期第3四半期決算報告の概要

#### 決算概要

○2018年12月期は、中期経営計画「V-PLAN60」において、「HOP-STEP-JUMP」のJUMPの年であり、創業60周年の区切りの年として、中期経営計画数値の達成に取り組んでいる。主な事業戦略としては、将来の収益性の向上に重点を置き、環境機器関連事業セグメントにおいては、ストックビジネスとして、メンテナンス事業及び上水エスコ事業の営業強化、海外における事業展開の推進、また住宅機器関連事業セグメントにおいては、基本に忠実な営業スタイルを徹底するとともに新規顧客の開拓に努め、再生可能エネルギー関連事業においては、循環型社会の実現と将来の需要拡大に向けた開発・販売強化を実施している。

○第3四半期連結累計期間における売上高は254億77百万円(前年同期比103.0%)、営業利益は4億46百万円(前年同期比56.7%)、経常利益は5億85百万円(前年同期比66.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億11百万円(前年同期比115.4%)となった。利益面では、原価の高止まりで前年度並みの売上総利益率に届かなかったこと、人件費上昇、周年事業経費の計上があったことが影響している。なお、コーポレートガバナンス・コードに基づく政策保有株式保有方針の見直し等で有価証券売却益として4億79百万円を特別利益に計上、固定資産売却損、固定資産除却損を特別損失に計上している。セグメント利益(営業利益)では、住宅機器関連事業セグメントは、当初計画並みの推移だったが、環境機器関連事業セグメントが未達成となり、全体で当初計画を下回った。

○環境機器関連事業に関しては、浄化槽排水処理システム売上は前年同期と比べやや減少し計画未達。特に前年同期は受注額6億7百万円の大型案件(中国)の完成があったものの当期はそれに並ぶ案件(国内)が工事進行基準により一部の収益取り込みとなったこと等がその理由にあげられる。ストックビジネスとしてのメンテナンス事業及び上水事業エスコ収入については前年同期と比べ好調に推移した。

セグメント利益(営業利益)については、売上の減少の他、国内事業で、赤字工事56百万円の発生やコストの増加等の利益抑制要因もあり、前年並みの利益率を確保できなかった。結果、売上高は122億26百万円(前年同期比97.6%)、セグメント利益(営業利益)は、

7億64百万円（前年同期比76.0%）となり、当初計画未達となった。

○住宅機器関連事業に関しては、全般的に顧客開拓が進み、前年同期並みに推移した。ホームセンターリテール商材は、新規取引開始店があったものの既存店への販売が減少したため、前年同期と比べ減少。住機部門工事は店舗建設工事が今期売上計上に至ったことで大幅増加。

セグメント利益（営業利益）については、売上高は118億24百万円（前年同期比106.1%）、セグメント利益（営業利益）は、4億16百万円（前年同期比111.9%）となり、当初計画並みに推移した。

○再生可能エネルギー関連事業に関しては、太陽光発電事業に係る売電事業において、前連結会計年度は子会社の売電収入を第2四半期連結会計期間より計上しており、当連結会計年度は期初より子会社の売電収入を計上するとともに、第2四半期連結会計期間より売電を順次開始。当初計画比はやや未達成だが、前年同期より大幅増加した。バイオディーゼル燃料事業は、前年同期と比べ販売が増加。小型風力発電機関連事業は、販売実績はなかったが、産学官の共同研究事業にかかる補助金11百万円を営業外収益として計上している。

セグメント利益（営業利益）は、売電開始に伴う接続調査検討費用15百万円が臨時に発生したこともあり、結果、売上高は1億77百万円（前年同期比139.6%）、セグメント損失（営業損失）は、72百万円（前年同期はセグメント損失（営業損失）55百万円）となり、当初計画未達となった。

○その他の事業に関しては、土木事業については、前連結会計年度は第2四半期連結会計期間より計上し、当連結会計年度は期首より子会社の工事収入を計上した。クリクラ事業は前年同期と比べ増加。

結果、売上高12億48百万円（前年同期比134.5%）、セグメント利益（営業利益）は1億9百万円（前年同期比105.6%）となり、当初計画を大幅に達成した。

○決算発表同日、今期の業績予想の修正を発表、今年度売上高は35,600百万円、営業利益は900百万円、経常利益は1,030百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は960百万円とし、売上高は前回公表予想数値と同じだが、利益予想を減額した。

○また、同日Crystal Clear Contractor Pte. Ltdの株式取得（孫会社化）を発表、同社はシンガポールにおいてコンドミニアム・ホテル・個人住宅向けのプールメンテナンス業務を中心に行っているが、人口の増加とともにプールの数も増加、マーケットの拡大を見込みダイキアクシスの水処理技術を生かした業容拡大で、海外展開の加速を図っていく予定だ。

[株式会社ダイキアクシス \(4245 東証1部\)](#) の2018年12月期第3四半期決算短信については、[こちら](#)をご参照ください。(→[2018年12月期第3四半期決算短信](#))

### リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

### リリースに関する照会先

[Borderless IR 株式会社](#)

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

T E L 03-4588-6706

[info@b-ir.co.jp](mailto:info@b-ir.co.jp)

Borderless IR は、国内・海外向け I R 情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外 I R 支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。